

大永元年三月二十八日

三七〇

〔獻策記〕

○本朝文集  
七十七所載

辨時節策文

菅原章長

問、天地人之傳統、雖百世亦可知乎、子丑寅之記正、追三代而殊建矣、文質交不勝、節序何有窮、未審斗轉東方、難諳其候、日行南陸、不詳夫時、剝棗兮斷壺、七月否八月否、滌場兮習射、孟冬乎季冬乎、滕閣之登高、逸才文可見、蘭亭之修禊、感懷辭欲聞、北窓臥涼、誰辨彼樂、大寒吐火、未知其名、牒者抑雖襪線之才、猥加帝師末籍、矧非衰職之器、忝汚人臣除書、子者文章之淵源、深幾千仞、仁義之安宅、仰瞻彌高、蚤決夏虫之疑、宜奮雲鵬之翼、

〔獻策記〕

○本朝文集  
七十八所載

辨時節對策

菅原長淳

對、竊以、軒轅帝之訖、建甲子分支干、高陽氏之時、作曆紀定晦朔、洪鈞轉氣、化工益新、故太昊執規兮勾芒御辰、玉璽既歸日角、祝融司火兮炎帝正位、朱明高輝雲膚、斗西指鴈南歸、草木黃落、鳥脚斷蜩毛縮、冰雪凜然、時逢異僧燃香、滿堂回煖、曾聞公主製簾、臥內却寒、落梅吹烟之村、蘇仙詩可詠、芳草連水之地、林逋吟欲賡、苦熱何處洗除、流

章長ノ策文

東坊城長淳ノ對策

金燦石、清泉今夕盈掬、沈李浮瓜、漢渚乘槎、感張博望之承使、廣寒遊月、憶唐明皇之極娛、三冬學書、文史足用矣、五伯行道、威烈式齊乎、運數雖速移、回耆豈得止、  
□□□□□□□□□□成國象、盡善盡美、克哲克明、前結義繩、後奏媯簧、經緯成德、上承漢圖、下興唐統、文思垂風、時寧待季孟之間、道須歸周召之古、即驗斗柄東轉、施韶光愛天下之春、日轂南行、馳盛陽燮宇宙之際、翮風歌七月、孰不學孔父之詩、戴禮記孟冬、載而在呂氏之簡、落霞孤鶩之筆、忽驚逸才、天朗氣清之文、猶稱佳致、陶元亮之北窓臥、自謂上世人、葛仙翁之異域方、共羨須臾術、謹對、

〔獻策記〕

○本朝文集  
七十七所載

序齒齡策文

菅原章長

問、陰陽健順、天之命乎、率性者謂賢、長幼聰敏、人之常乎、養氣而克達、豈論大學小學、不畏先生後生、若夫龍駒鳳雛、歷歲欲聽、蟠桃仙藥、遐齡難尋、搢紳羽儀、美譽因何速、後進領袖、此語協誰傳、讀漢書作指瑕、今古才焉辨、披孝經通大義、始曩學可知、李勣位三公、貴德耶貴齒、胡廣稱太傅、舉孝兼舉廉、方可悉至言、請莫欺下問、

〔獻策記〕

○本朝文集  
七十八所載

大永元年三月二十八日

三七一



大永元年三月二十八日

三七二

序齒齡對策

菅原長淳

對、竊以、太公綏帝師、遁渭濱賈釣之謗、四皓翊羽翼、稱商山真隱之翁、俊髦競時、大老歸國、夫先聖學易、誦記知命之年、伏生傳書、暗遺教授之譽、應答神悟之子謂一座顏回、春秋壯通以汝呼無雙荀氏、惟孝令感慈母、懷橘三枚、彼言曾驚群兒、苦李多實、老萊子彩衣之戲、世以綏美談、榮啓期鼓琴而歌、豈不曰至樂、洛下開耆英坊、式慕九老之游、京師驚總角詩、況有上帝之奪、朝廷仕進之日、鸚鵡可觀、宗廟祭祀之時、燕毛序齒、君門期第一、射籥而誇少年哉、玉堂記狀元、設香而逢廿春矣、壽考者不傷德、烈士可謂役名、然則龍駒鳳雛、陸氏兄弟既齊譽、蟠桃仙藥、王母嫦娥偕同齡、孩子而有元和、風流終稱搢紳羽儀矣、聰敏而得屬文、時語僉曰、後進領袖焉、書作指瑕、王勃幼摘師古之失、經通大義、朱熹蚤窺孔子之情、位列三公、自山東之田夫立、職遷太傅、得天下之中庸名、某識鑑不徹、鈍榜式微、一朝聞科詔之下、白汗如流、曩日縻程式之詞、墨水可飲、才非天稟、答隔雲泥、謹對、

敘書簡策文

菅原爲學

五條爲學ノ  
策文

問、書簡道興、豈墜規矩、經籍法正、宜鑒古今、盡忠恕而與人、敷皇極以創業、未審老聃著道德、未隱時乎、既隱時乎、尼父作春秋、蚤年日否、晚年日否、處厚講洪範、微起如何、施讎述五經、旨趣欲辨、暗中誦卷而得竹牒、何人授之、冬來好書而蔽茅椒、有桶樂矣、秘閣數萬軸、不踰月而難習耶、文史三十車、雖徙居而寧富也、余者蓬葦之賤士、懋傳翰墨累世之儒風、子者棟梁之奇兒、定得金玉未冠之及第、更揚愚鈍之問、早述博識之情、

敘書簡對策

菅原長雅

高辻長雅ノ  
對策

對、竊以、造書契而代羲繩、政教惟大、取紀綱而推堯曆、德儀無私、本立而道生、(體アルカ)質而文著、故三墳五典、學則涉古今、八索九丘、窺者諳風土、不積功績、爭識要樞、雪案螢窓、惜居諸之早點、(體アルカ)塵篇蠹簡、嘆聖賢之夢難逢、徒剔落燈花數枝、矧費得形管幾楮、維時磨古硯、唐子西之銘猶存、舉世構書巢、陸務觀之記可見、彼入雨夜深巷句矣、我從月裡何處上焉、廣舍百五十楹、賜以天府號、法言數千萬字、怪無賈人名、克省仁義行、乃勵鑽仰志、我國家與天合德、則大居尊、內撫諸夏、外綏百蠻、值休牛歸馬之日、上有明

大永元年三月二十八日

三七三



大永元年三月二十八日

三七四

王、下出賢相、威威鳳祥麟之時、爵祿之報兩崇、文武之業未廢、即驗老聃著道德、授關令而後隱栖、尼父作春秋、至晚年之時却了、召講洪範、得登庸於掖亭、與論五經、辨同異於渠閣、照卷而得竹牒、奄拜太乙之神靈、好書而蔽茅椒、負憶則天之兄弟、秘省數萬軸、早知李伯喈焉、文軌三十車、彼厥張茂先也、謹對、

論魚龍策文

菅原爲學

問、巨海長江有游魚之於叟、深山大澤覺鱗虫之藏身、陰氣所凝、湯爻易變、若夫池底養赤鯉、何人將乘、盆中釣銀鱸、彼輩可聽、一日徙暴鱔、斯文誰乎、百丈觀游鯈、其樂若奈、楊震堂下、鱸鱠不分明、孫子室前、蛟龍那化去、雌雄遭擾畜、時代欲詳、張鄭所戰攻、土地宜辨、早要聞博達之語、式可振多智之才、

論魚龍對策

菅原長雅

對、竊以、風渚波驚、潛魚願深渺、江天日暖、細鱗誇浮遊、百谷分流、萬川朝海、夫山鳥出沒、忽見鯀背之欵、雲雨集從、先知龍翼之奮、時呈九五位、或存小大形、鯤綳搏扶

御製

搖、負青天而絕氣、鯨鯢橫千里、鼓白浪而成雷、群書之餘論、諸物爲難盡、傳舍彈長鈇、馮驩宜遷、大鈞本無鈎、呂尙有跡、想昔洪祖之威加四海、何日范氏之行經南方、市朝非厭腥、王室以如火、然則池底養鯉、子英之乘遂成、盆中引鱸、左慈之術屢異、斯文徙暴鱔、至今貴昌黎於潮州、其樂見游鯈、爾來論莊周於濠上、講惟堂下、三鱸豈非三公祥、奇石室前、一龍卽化一老叟、雌雄遭擾畜、時代憂忽忘、張鄭所戰攻、土地奈勘辨、某愁趨遊學之路、管見歷年、今臨登第之場、棘圍任鎖、幸期鸚薦、彌仰鴻慈、謹對、

三十日、壬、三月盡和歌御會並二和漢聯句御會、

〔柏玉集〕 藤爲松花 永正十八三  
月盡御月次、

花 ちらすなみにはあらぬ藤波やかせのゆくゑの松にかゝれる  
ときいなるみとりも花に色そへて今そ一入の松の藤波  
年ふれと二木にもイあらぬ松かえに花をみきとやさける藤なみ

三月盡夜 永正十八三  
月盡御月次、

またしらぬ別といふもむみる夢もは玉のはるのこよひや一夜の春にはしめなるらんかこち初つゝ  
花とりとなにをかひひし春たゝ胡蝶の夢にのこる一夜を

大永元年三月三十日

三七五



大永元年三月三十日

三七六

さたかなる夢にまさらぬ思ひあれや春くるゝ夜のやみのうつゝの

江雨鷺飛 永正十八年三月三十日

雲水の上をやまよふ雨夕日かけくらき入江の山雨にわたるしらさき

江をとをみ飛の雪なる鷺の毛のみのしろ衣雨にぬれつゝぬるゝ雨かな

すみかきのたゝ一筆の外なれや雨落る江をに渡るしらさき

〔後奈良院御製〕

藤爲松花 永正十八年三月十九日

ふかみとり松に越たる色も猶有とやかゝる春の藤なみ

三月盡夜

したへともよふかくつくるかねの音に春のかきりいふかひもなし

江雨鷺飛

蓬生る船の入江の雨の音に蘆のはそよきわたるしらさき

〔再昌草〕

二十一 〇宮内廳書陵部所藏 永正十八年

公宴月次御會、晦日なり、後日詠進也、藤爲松花

玉かつらはふ木の藤のあまたあれと松のみ花のいろをそへける 〇雪玉集、異事ナシ

三條西實隆

知仁親王

三月盡夜  
名残おもふ行かたしらはよふこ鳥春よひかへせ夜のふけぬとも 〇雪玉集、異事ナシ

江雨鷺飛

雨ふれは入江のみきへますけおふる澤をや鷺の立はなるらん 〇雪玉集、第四

句ヲ陰をやさきの二、第五、句ヲうちなるらんニ作ル、

〔碧玉集〕

春部

永正十八年三月卅日、禁中月次御會、藤爲松花

いく世をかへにける松に藤なみの花も十かへりちきりかけきや

永正十八年三月卅日、禁中月次御會、三月盡夜

名残おもふこよひあけな花鳥のいろねをとむ行えしもなし

〔碧玉集〕

雜部

永正十八年三月卅日、禁中月次御會、江雨鷺飛

くるゝ江の雨にみの毛もしほれ蘆のかけゆく鷺の色そわかるゝ

〔今川爲和集〕

二 〇宮内廳書陵部所藏 藤爲松花 永正十八年三月、同卅日、禁裏御會ニ、

わきて此春をやまつの花ならん一しほ色のふかき藤かえ

三月盡夜

大永元年三月三十日

三七七

冷泉政爲

冷泉爲和



大永元年三月三十日

三七八

したひても三月今ハとくれはとりあやなや夢のうたゝねの床

江雨鷺飛

飛鷺や翅おもけにしほるらん雨のふる江の夕くれの空

〔言綱卿詠草〕

○東京大學史料編纂所蔵

永正十八三廿四、禁月次御會、藤爲松花

松の春花もありけりトハかりに藤さきかゝる今をこそみれ

三月盡夜

あけはそのかすみし空も夏ならん春ハこよひをなこりとやせん

江雨鷺飛

水かけもにこる入江の雨の日に蓑毛しほれて鷺そ飛行

〔三水記〕

三月卅日、禁裏和漢御會有之、（等貴）月舟被參御會了、於御前有一獻、（等貴）鹿苑院御樽被進云々、

壽桂和漢御會ニ參會

伯耆守某、周防慈福寺ヲ改易シ、僧宗順ニ之ヲ預ク、

〔長防風土記〕

百十五 都濃郡 宰判 周防國都濃郡四 久米村 寺院

禪宗久米山 慈福寺

久米郷慈福寺事、連々相成大破之條、寺家事令改易訖、仍彼寺事預置候、然ハ云寺家、

云寺領、執務不可有相違之狀如件、

永正十八年三月晦日

宗順藏主禪師

（杉重矩カ）伯耆守書判

大永元年三月三十日

三七九



大永元年四月一日 二日 三日

四月小盡 癸未朔

一日、癸未、御祝、

〔二水記〕 四月一日、癸未、晴、○中略、今夜御盃如例、

正四位下丹波賴量ヲ、從三位ニ敍ス、

〔公卿補任〕四十 非參議從三位丹波賴量、五十 四月一日敍、後日今日之賜位記、元典

藥頭去之、故從三位賴秀卿男、母、

二日、甲、正四位下清原宣賢ヲ、從三位ニ敍ス、

元少納言

〔公卿補任〕四十 非參議從三位清原宣賢、七十 四月二日敍、元少納言去之、故贈從二

位宗賢卿男、母、

伊達植宗、陸奥資福寺ヲシテ、同寺領ヲ安堵セシム、

出羽屋代莊  
佐澤郷

〔伊達正統世次考〕八上 永正十八年辛巳夏四月二日、賜判書於資福寺、曰、自

三日、乙、長尾爲景、越中再ビ亂ル、ニ依リ、兵ヲ同國ニ出サントシ、長

深惠買地屋代莊佐澤郷内云云、其外總成敗之事、任本狀、永代不可有相違、仍爲後日證

狀如件、

越中二上  
要害ノ攻圍

尾房景ニ出陣ヲ命ズ、

〔上杉家文書〕

越中張陣義、就中去年極月廿一日一戰砌、各御動事、從畠山ト山可被成御感書分候、先

以自某可申届之由候間、乍憚進書狀候、然而彼國再亂、二上要害取詰相攻之由、度々註

進到來、數年大忠、勞而無功義候哉、其上彼要害落居候者、能州訖可爲御難儀候、連々

申談筋目可爲相違候之間、重而可令出陣候、御陣勞雖勿論候、有用意、今月中御著陣簡

要候、順番次第註文別昏在之、努々不可有御油斷候、恐々謹言、

彈正左衛門尉

〔永正十八年〕  
四月三日

〔長尾〕  
爲景(花押)

〔房景〕  
長尾彌四郎殿御宿所

〔東寺過去帳〕

長尾〔長尾爲景〕〔永正十八年〕  
與越中・加賀衆合戰打死、

〔異本塔寺長帳〕四 大永元年辛巳、越後長尾勢越中エ亂入、戰無利歸、

○爲景、越中新庄城ヲ陷レ、神保慶宗等ヲ斬ルコト、永正十七年十二月廿一日ノ條

大永元年四月三日



大永元年四月七日

三八二

二、越中平定ヲ能登守護畠山義總ニ報ジ、義總、加賀・能登・越中三國ノ協力ヲ約スルコト、本年二月十三日ノ條ニ見ユ、

七日、己和漢聯句御會、

〔二水記〕 四月七日、○中略 午時參内、於儀定所有和漢御會、發句予申入了、(發句應)

○コノ後ノ和漢聯句御會竝ニ知仁親王御所和漢聯句御會・諸家和漢聯句會ノコト、便宜左ニ合敘ス、

〔二水記〕 四月廿二日、○中略 有和漢御會、

五月二日、午前參内、和漢・連歌御會兩座有之、百韻了有一獻、及數盃、各令沈酪了、(鹿苑院) 同御侍者・竹内殿等令參給、

十一月廿四日、午前參内、有和漢御會、御小人數也、中山中納言參候、(兼親)

〔二水記〕 二月十七日、○中略 及申剋許參御方御所、御和漢御會也、(知仁親王)

十月三日、已剋參御方御所、有和漢御會、秉燭二百韻果之、初百韻之發句予申入了、廿二日、參御方御所、有和漢御會、

〔二水記〕 正月十四日、午時向三條西亭、有和漢會、庭田・高倉・予・亭主只四仁也、(公條)

連歌御會ヲ行ハル

知仁親王御所和漢聯句會

三條西公條會和漢聯句會

鹿苑院和漢聯句會  
花山院政長第和漢聯句會

眞梁ノ法嗣

上卿中御門宣秀禮錢

乘燭尙不終、百韻至餘波折道遙院被出座、又及盃酌、亥剋許歸家了、(三條西公條)

〔實隆公記〕 九月二日、辛亥、雨、○中略 都督參鹿苑、有夜聯云々、(初成乙)

〔二水記〕 十一月廿二日、入夜參花山院家、有和漢會、宿此亭、(政長)

八日、庚寅播磨西福寺祝父俊嚴二、會上禪師ノ號ヲ賜フ、(明石)

〔諸宗勅號記〕 會上禪師諱祝父、字俊嚴、特賜 播州靈照山西福寺也、

勅、山擎雲松、况有西福巨刹、地開種草、未墜曹洞遺風、緇林德馨、道苗名秀、祝父和尚、石屋眞梁之法嗣、永澤通幻之玄孫、叱々提宗綱、參見者宿、日々唐磨寶鏡、照却醜妍、言顧行、々顧言、感隨宜說法、正即偏、々即正、諳工夫單傳、雖置身於邊州、獲揚譽於禁闕、特賜會上禪師、

永正十八年四月八日

上卿權大納言宣秀卿 職支右中辨資定(柳原)

〔拾芥記〕 下 四月八日、自播州明石郡西福寺申特賜號、禁裏千疋、柱下祿物千三百疋、白川申沙汰、(雅業王)

〔後柏原天皇宸翰宸記〕 ○宸翰集第五所收 四月十日、播磨國西福寺禪師號申、勅許、在伯三位

大永元年四月八日

三八三



大永元年四月九日

申、勅許、

光智榮、傳、山城元應寺ニ住ス、

〔來迎寺文書〕二 元應寺列祖次第

第卅九 傳榮和尚圓忠上人、江州十乘院住持、永正十八辛巳、大永元四月八日入院、光智和、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕○宸翰集 第五所收 四月廿一日、元應寺光智新命對面、

九日卯、辛、權大納言甘露寺元長ヲ罷メ、權中納言三條西公條ヲ以テ之ニ

替フ、又右近衛權少將九條種通ヲ權中納言ニ任ジ、右近衛權中將ヲ兼

〔公卿補任〕四十

權大納言正二位藤元長任露寺 六十、民部卿、四月日辭退、

從二位同公條三條西 五十、四月九日任、元長替、

權中納言從二位藤種通九條 十六、四月九日任、元二位右少將、今日兼右中將、

〔大中納言參議等宣旨〕○宮内廳書 陵部所藏

永正十八年四月九日 宣旨

宣旨

太宰權帥藤原朝臣三條西公條

宣任權大納言、

從二位行右近衛少將藤原朝臣九條種通

宣任權中納言、

藏人頭左中辨藤原秀房萬里小路奉

從二位行權中納言兼太宰權帥藤原朝臣公條

正二位行權大納言藤原朝臣宣秀宣中御門、奉勅、伴人宣令權大納言者、

永正十八年四月九日 掃部頭兼大外記造酒正博士河內守中原朝臣師象押小路奉

從二位行右近衛權少將藤原朝臣種通

正二位行權大納言藤原朝臣宣秀宣、奉勅、伴人宣令任權中納言者、

永正十八年四月九日 掃部頭兼大外記

師象奉

大永元年四月九日



永正十八年四月九日 宣旨

權中納言藤原朝臣植

宜兼任右近衛權中將、

藏人頭左中辨藤原秀房奉

從二位行權中納言藤原朝臣植通

正二位行權大納言藤原朝臣宣秀宣、奉勅、件人宜令兼任右近衛中將者、

永正十八年四月九日 掃部頭兼大外記

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

○宸翰集第五所收

四月九日、

○中帥中納言亞相、九條二位少將中納言、中將兼任、洞院攝政例云々、(左中辨宣)

〔砂巖〕

六 三條西家系圖并傳 柳原家記錄八十八所收

一公條公

母、儀同三司 教秀公三女、

實隆公二男、

○中

大納言、永正十八

四九、

〔三水記〕

四月十日、

○中

午前向三條西亭、帥卿昇進

大納言、令賀了、

七月一日、辛亥、晴、○中黃昏向三條亭、今日大納言奏慶也、堂上衆歷々兼在座、大外記。

植通ノ兼任ハ九條教實ノ先例ニ據ル

公條奏慶

官務等候末座、盃酌三反了各令退散、此後甘露寺中納言著公卿座、次大納言著座、次甘

中起座、次大納言起座、於中門內有家拜、二拜兩度歎、不慥見、拜了出中門、向扈從之人上

首揖、(先之甘露寺中納言列中門之東方、西面也、藏人頭左中辨秀房朝臣、)次扈從衆答揖、了各連步、頗行

裝也、(大納言僮僕小雜色八人、)於四足門下發前聲、經床子座前、(至中央東面而一揖、兩局兼著座、答揖如常、)參進弓場、申

次右少辨尹豐也、舞踏之儀如常、(三步許進退、)拜舞了從殿上堂上參御所方、有御對面歎、

此後甘露寺中納言奏慶、(○中略、本月二十一日ノ條參看、)者大納言著陣、移著端座、見官方吉書、頭辨著陣、

事了藏人方吉書等如常、此後甘露寺中納言著陣、官方藏人方等吉書見之、(著座辨右、)了退出、

四日、晚陰、詣逍遙院、先々亞相昇進事之相賀、仍爲其禮也、(令カ)

〔實隆公記〕 八月廿六日、乙巳、(入夜風吹、)自久我亞相二荷兩種被送帥方、神光院傳達、

昇進間事有被示旨、

前大僧正定法寺公助ヲ法務ト爲シ、法印無量壽院應祐ヲ權僧正二任

ズ、

〔壬生家四卷之日記〕 一 四月九日、知行法務并任權僧正事、(以古物寫之、)

宣旨 中御門大納言、

大永元年四月九日

三八七



大永元年四月九日

三八八

前大僧正公助(定法寺)、宜令知行法務事、法印應祐(無量壽院)、宜任權僧正事、

右宣旨、早可被下知之狀如件、

四月九日

中辨(高里小路秀房)、(判如此、白昏書之、)

大夫史殿(壬生子世)

左大史壬生  
于恆請文

謹請

宣旨事、

前大僧正公助、宜令知行法務事、法印應祐、宜任權僧正事、

仰依請、

右宣旨、早可下知之狀、謹所請如件、

四月九日

大史小槻于恆請文

前大僧正公助

左中辨藤原朝臣秀房傳宣(高里小路)、權大納言藤原朝臣宣秀宣(中辨也)、奉勅、件人宜令爲法務者、

永正十八年四月九日

主殿頭兼左大史小槻宿禰判奉

法印應祐(無量院)

左中辨藤原朝臣秀房傳宣、權大納言藤原朝臣宣秀宣、奉勅、件人宜任權僧正者、

永正十八年四月九日

主殿頭兼左大史小槻宿禰判奉

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

○宸翰集  
第五所收

四月九日、定法寺法務、無量壽院僧正事、自門跡(青蓮院)

執奏、左中辨宣、

〔壬生于恆記〕

○宮内廳書  
陵部所藏

四月十七日、己、晴、○中、法務公助(定法寺)、并權僧正應祐(無量院)、可

敍極官之由、左中辨秀房朝臣宣下到來、去九日々付也、局務師象朝臣傳送之、

十八日、庚、晴、向局務師象朝臣許、昨日宣下傳達之儀所謝也、於彼宅兩通相調之、次參

三條西殿、入道殿御(○下、關ク、)

○興福寺大乘院經尋ヲ大僧都ニ任ズルコト、便宜左ニ合敍ス、

〔賴繼卿記〕

○歷代殘闕  
日記百所收

大永元年十二月廿三日 宣旨

大永元年四月九日

三八九

青蓮院門跡  
ヨリ執奏

大乘院經尋  
ヲ大僧都ニ  
任ズ



大永元年四月九日

三九〇

少僧都經尋

大乘院也、正僧都每度恆例、上卿中御門大納〔言院〕

宜轉任大僧都、

藏人左少辨藤原〔兼左衛門〕一奉

口宣一紙獻上之、早可令下知給之狀如件、

十二月廿三日

左少辨賴繼奉

進上 中御門大納言殿

〔經尋記〕 二

〔表紙〕經尋御筆 大永年中  
藥師寺別當記 大乘院

三條西實隆  
口宣案ノコ  
トニ就キテ  
經尋ニ報ス

大典侍局御書信尤可然候、旁得涼氣御上洛待申候、抑口宣案大僧都と存候て申候き、只今改進之候、以前口宣案後便可返給候、七大寺之事異于他候、當門又嚴重之事候間、定而可爲次第下知之由存候間、官務可成宣旨之由覺悟候處、近例口宣計由承候、頗聊爾之事候歟、雖然近例上者不能左右事候、將又御樽兩籠拜受、御用共候繁多時分、御餘所々々敷御沙汰迷惑候、乍去千秋万歲祝著申候、條々猶後便可申候、取亂不能巨細候、猶々

種々御大義察申候、恐々謹言、

八月十四日

〔三條西實隆〕  
堯空

袖書義子細候、禮義共被調候、珍重候、

十日、〔辰〕備後宮政盛及〔比〕同親忠、小奴可亦次郎ノ、同國柏村ニ於ケル戦功ヲ褒ス、

〔萩藩閩閩録〕

百四十九  
宮與左衛門

四月九日、於柏村固口被及合戦、太刀打之條、高名之段無比類候、彌可被抽戦功者也、仍狀如件、

永正十八

四月十日

〔宮〕  
政盛判

〔坂可、下同シ〕  
小怒哥亦次郎殿

昨日九日、於柏村表合戦之打太刀之條、粉骨無比類候、彌被抽忠節者、可爲神妙者也、仍狀如件、

永正十八

四月十日

〔宮〕  
親忠判

大永元年四月十日

三九一

四月九日ノ  
戦



大永元年四月十日

小怒哥又次郎殿進之

○柏村ノ戦ノコト、詳ナラズ、

長尾爲景、宇佐美定行等ト越後夷守郷三分一原ニ戦フ、尋デ、爲景、被官芹澤彌四郎ノ戦功ヲ褒ス、

〔保阪潤治氏所藏文書〕

○越後

〔藤原〕芹澤彌四郎殿

〔押紙〕芹澤彦三

〔長尾〕爲景

於去十日頸城郡夷守郷三分一原、對宇佐美一類・柿崎以下一戰、數刻矢師鏑突誠火花砌、於眼前碎手突鏑之條、敵數千人討捕上、負鏑手一ヶ所候、神妙之至、感之候、謹言、

〔大永元年〕

四月十三日

爲景〔花押〕

芹澤彌四郎殿

〔北越軍記〕

一 長尾爲景企逆心上杉房能弒事

定行爲景ト  
十三年間爭

然レモ宇佐美駿河守ハ爲景ト楯ツキ、永正八年ヨリ大永元年迄十三ヶ年ノ中取合、柏崎ヨリ沖野庄内迄切隨、出雲崎・寺泊・新縣モ手ニ入、上田ノ長尾房景、其子政景モ、上田ヨリ越中ノ諸丸迄切隨、大永元年ニ顯定ノ養子上條播磨守定憲再謀ヲ被運、家老毛菴四郎

上杉定憲長  
尾房景及ビ  
爲景ト越後  
六日市ニ戦  
フ  
爲景柿崎景  
家ノ内應ヲ  
依リ大利ヲ  
得

定行上杉憲  
房ノ調停ニ  
依リ爲景ト  
和ス

左衛門尉ヲ使ニテ、舊功ノ軍兵ヲ招候ニ、顯定ノ舊恩ヲ慕、爲景力逆威ヲ惡ミ、長尾一家ノ族モ多分ハ定憲ニ隨、上郡・中郡・下郡ノ軍兵共大半馳加ル、顯定・房能恩顧ノ輩ハ申ニ不及、八條左衛門太夫・宇佐美駿河守一黨・柿崎彌次郎・同彌三郎一黨・風間・五十嵐一類ヲ味方トシ、多勢ヲ以テ能塞ニ城廓ヲ構、軍兵ヲ籠テ猛威ヲ振、上田ヘ推寄テ、六日市ト申所ニテ長尾越前守房景ト大ニ戰、爲景モ大軍ニテ急後詰シテ、定憲ト合戦度々ニ及ト云モ、宇佐美駿河守・八條左衛門以下智勇ノ大將ユヘ、毎度ニ定憲不勝ト云事ナシ、爲景方ノ將士如何有ント案煩所ニ、爲景謀ヲ運、柿崎彌次郎景家ヲ引付、裏切ノ手段ニ約束シ、頸城郡江三分一原ニ於テ合戦ヲ企、勝負區ノ砌、柿崎彌次郎多勢ニテ後ヨリ関ヲ上切懸シカハ、定憲敗軍討死シ給、柿崎一類・宇佐美一類・八條・風間ヲ始、定憲方悉討死シ、爲景大利ヲ得、定憲方ヲ討平、國中大方治、柿崎彌次郎景家ハ、此度ノ忠節ニヨリ、柿崎一門ノ領分ヲ與ヘ、柿崎和泉守景家ト號ス、宇佐美駿河守定行ハ一類不殘討死シケレモ、定行手勢計ニテ大敵ノ圍ノ中ヲ切抜ケ、松之山家城ニ引籠リ防戦シテ、爲景モ定行力勇機ニ退屈シ、管領上杉憲房ヘ言上シ、憲房ノ扱ニテ、大永元年十月ニ、宇佐美駿河守、爲景ト和談ニナリ、國中ノ兵亂初テ靜ル、是即駿河守定行三十

大永元年四月十日



大永元年四月十日

三九四

三歳ノ時ナリ、○上下略

〔参考〕

〔越後略風土記〕

乾 古城趾之部 刈羽郡 琵琶嶋城

宇佐美駿河守定行

孝忠子、童名藤三郎、後定滿と稱す、甲越軍記云、本領五萬八千石餘、

天文十四年十月十日、鹽澤松の山家を賜ひる、是は當春椽尾合戰勳功の賞なり、定行

十九歳にて父孝忠の遺跡を繼、琵琶嶋に在城しけるに、永正六年三月、〔四年八月〕長尾信濃守爲景逆

心を企、屋形民部太輔房能を弑しける時、○房能、爲景ト戰ヒ、越後天水ニ敗死ス、ルコト、永正四年八月七日ノ條ニ見ユ、定行二十一歳

なりといへとも、武勇智謀の者ゆゑ、主君の仇を打んと、國中へ觸廻し、上杉の庶流上

條兵庫頭定實を假に屋形となし、本意を達せんと、祝儀として重代の太刀備前長光を獻

す、○中略 定行琵琶嶋に楯籠り、義兵を發し、柏崎より沖野庄内まで、片濱十五里ほど切

隨ひ、大永元年まで十三年か間、爲景と合戦す、時に關東管領上杉憲房と屋形定實の扱

にて、定行・爲景遂に和談し、國中治りける、○下略

〔越後略風土記〕

乾 古城趾之部 頸城郡 柿崎猿毛城

柿崎和泉守景家 童名彌次郎、

宇佐美定行

柿崎景家

江三分一原

〔越後略風土記〕

三 古戰場之部 江三分一原 頸城郡

大永<sup>〔元〕</sup>六年、頸城郡江三分一原にて上杉定憲と長尾爲景合戦の砌、柿崎彌次郎裏切の勳功

によりて、柿崎一門の領地を賜へり、和泉守に任す、爲景・謙信二代に仕へて度々の手

柄あり、○下略

十一日、〔巳〕二條尹房、物ヲ獻ズ、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

○宸翰集 第五所收 四月十一日、自關白三合二荷進上、

○山城安樂光院等、物ヲ獻ズルコト、便宜左ニ合敘ス、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

○宸翰集 第五所收 四月七日、安樂光院折三合進上、

十七日、自延應寺卷數・茶五十袋進上、伊勢國也、勅願寺云々、自安禪寺被執申、毎度

事也、

〔實隆公記〕

十月二日、辛巳、晴、詣歡喜寺、向廬山寺、理性院被送菊花、則令進上

禁裏了、

大永元年四月十一日

三九五

山城安樂光院折ヲ獻ズ  
伊勢延應寺卷數茶ヲ獻ズ  
三條西實隆菊花ヲ獻ズ



杜若ヲ獻ス

大永元年四月十二日

三九六

十四日、癸巳、晴、○中略宗甫爲右京大夫送池之杜若、則令進上禁裏了、庭前金柑枝遣之、

〔大寶院文書〕

○伊勢

〔籠紙ウハ書〕

ちうしやうとのへ

〔御裏書〕  
〔仰大永元〕

女のやうひろうして候、いせの六大るんより、御きたう申候て、御くわんしゆ・御ちやまいり候、めてたくおほしめし候、御心え候て、おほせられ候へく候、なをく御きたう、よくく申され候へく候よし、申とて候、しゆし、

十二日、甲午、北條氏綱、伊豆寶成寺ニ禁制ヲ掲グ、

〔北條寺文書〕

○伊豆

制札

父宗瑞ノ制  
札ノ旨ニ依  
ル

寶成寺山林竹木井門前菜園等之事、當方入國以來、至于今日迄、〔伊勢宗瑞〕任早雲寺殿御制札之旨、○宗瑞、寶成寺ニ禁制ヲ掲グルコト、明應八年三月是月ノ條ニ見ユ、永不可有相違者也、仍如件、〔北條氏綱〕春松院殿御在判寫之、

永正十八辛巳年四月十二日

十四日、丙申、權大納言小倉季種ヲ罷メ、尋デ、權中納言西園寺實宣ヲ以テ之ニ替フ、

〔公卿補任〕

四十

權大納言正二位藤季種、六十四月十四日辭退、

正三位藤實宣、廿六四月十六日任、季種替、

〔公卿補任〕

四十六

十五日、丁酉、正三位勸修寺尙顯・同四條隆永・同四辻公音・同中山康親・

同世尊寺行季・同河鰭實治ヲ竝ニ從二位ニ敍ス、

〔公卿補任〕

四十

權中納言正三位藤尙顯、四十四月十五日敍從二位、

同隆永、四十四月十五日敍從二位、

同公音、四十四月十五日敍從二位、

同康親、三十四月十五日敍從二位、

大永元年四月十四日 十五日

三九七

實宣ノ奏慶



大永元年四月十六日 十八日

三九八

前參議 正三位同行季(世尊寺)、四月十五日敍從二位、

同實治(河橋)、五月、四月卅日、去十五日賜從二位々記、

賀茂祭、

〔二水記〕

四月十五日、參當番、賀茂祭、御盃於常御所如例、(伏見宮貞敦親王)中書君令參給、(常陸守元長)民部卿、(三條西公條)新大納言・(言卿)新宰相等候、及六七獻有美聲、

十六日、(戌)來迎寺某、香衣ノ勅許ヲ請フ、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

(宸翰集 第五所收)四月十六日、來迎寺香衣申、(兼家)賴繼奏、自田舍今

日上洛、對面、檀帟・曇子代進上、

十八日、(庚子)禁裏小番結改、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

(宸翰集 第五所收)四月十八日、内々小番今日結改、(元長)甘露寺申沙汰也、

〔二水記〕 四月十八日、(略中)午後參番、(四辻季德)亞相御代也、從今日結改也、依有昇進之仁如

此、

廿二日、參番、(今度結改、爲五番)

○本年中、甘露寺元長・鷲尾隆康等、小番ニ候スルコト、便宜左ニ合敍ス、

常御所ニ於  
テ御盃事  
伏見宮貞敦  
親王御參内

御對面

昇進者アル  
ニ因ル

甘露寺元長

鷲尾隆康

外様番

〔元長卿記〕 正月五日、晴、(略中)當番、晝間左大辨宰相祇候、予參宿、勾當局携小樽、(甘露寺伊長)官女之中遣薰物如例年、

〔二水記〕 正月七日、晴、午時參當番、

十三日、(略中)當番依不具不參、

十九日、午剋許參内、(略中)候當番、

廿五日、當番依不具不參、

二月二日、(略中)當番也、

七日、(略中)秉燭之程參外様番、(基春)持明、(院代)

八日、(略中)當番不參、

十四日、當番、午後參、

十九日、午剋參内、(略中)予爲正親町代候番了、(實德)

廿日、當番不參、

三月三日、(略中)午時參當番、

九日、午後參當番、

大永元年四月十八日

三九九



大永元年四月十八日

十五日、當番依不具不參、  
 廿六日、爲正親町番代參内、  
 四月三日、略<sup>○中</sup> 午時參當番、  
 九日、略<sup>○中</sup> 晚頭參當番、  
 十五日、參當番、  
 廿一日、晚陰、參番、廣橋代也、  
 廿四日、爲前亞相御代參番、  
 廿八日、當番、令相搏廣橋了、  
 五月五日、參當番、  
 十一日、略<sup>○中</sup> 晚頭參當番、  
 十七日、參當番、無事、  
 廿三日、當番依不具不參、  
 六月六日、當番依不具不參、  
 十二日、略<sup>○中</sup> 當番不參、

四〇〇

花山院忠輔

卅日、略<sup>○中</sup> 此後參當番、  
 七月六日、略<sup>○中</sup> 入夜參當番、  
 十八日、略<sup>○中</sup> 晚頭參内、當番也、少時候御前、世上間之儀條々被仰下了、  
 廿五日、參番、(爲替) 五條代也、  
 八月一日、辰、庚、陰、午後晴、<sup>○中</sup> 入夜參當番、  
 七日、參當番、有御楊弓、晚頭花山院<sup>(忠輔)</sup>大納言被候番、於鬼間有一盞、  
 十九日、參當番、  
 廿五日、略<sup>○中</sup> 當番候宿、  
 九月一日、戌、庚、晴、 當番不參、  
 十九日、午前參當番、  
 廿一日、午刻參内、略<sup>○中</sup> 爲亞相御代候番、  
 十月一日、辰、庚、晴、<sup>○中</sup> 當番、依不具不候、  
 十三日、當番參宿、  
 十一月二日、當番參宿、於御前有御雜談、

大永元年四月十八日

四〇一



八日、○中略當番候宿、

廿日、○中略當番不參、

廿六日、當番不參、

十二月二日、當番不參、

八日、當番參宿、

十四日、當番參宿、召御前、帥卿同伺候、節會間支被仰下、

廿日、午前參當番、

廿六日、入夜參内、當番也、

〔實隆公記〕 八月廿五日、甲辰、雨、(三條西公條)都督向德大寺、歸宅候番、

十一月廿日、戊辰、晴、○中略帥候番、

細川高國、足利義澄ノ遺子義晴ヲ迎立セントシ、若狹守護武田元光ヲ招ク、

〔伊勢貞助記〕 ○後鑑二百八十六所載

就室秀軒之儀、示給候旨、得其意候、仍若公(義晴)様於御入洛者、則參洛候様、相調候者可然

候、幸當國仁少知行在之由之條、可被相談事肝要候、猶吉田三河守可申候、恐々謹言、

永正十八

四月十八日

(細川)高國

武田伊豆守殿 (元光)

○高國、浦上村宗ト謀リ、義澄ノ遺子義晴ヲ迎立スルコト、七月六日ノ條ニ見ユ、十九日、辛丑仁和寺、鏡箱地藏ヲ供養スルニ依リ、御布施ヲ賜フ、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕 ○宸翰集第五所收 四月十九日、○中略鏡箱之地藏供養、御室、扇・杉原

御布施、

曲舞アリ、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕 ○宸翰集第五所收 四月十九日、女舞、

〔二水記〕 四月十九日、晩頭參内、有曲舞、朝霧、今日御沙汰也、先日之御返報云々、○延臣

宮女等、酒饌ヲ獻ジ、即位式ノ無事終了ヲ奉祝スルコト、三月二十二日ノ條ニ見ユ、

是ヨリ先、蘆名盛舜、部將松本大學ヲ誅ス、是日、ソノ弟藤左衛門ヲモ誅ス、

〔塔寺八幡宮長帳〕 六

○岩代

(永正十八年長帳)此年松本大覺殿御所(實下同シ)かい、四月十九日、御前(蘆名盛舜)にて同舍弟



大永元年四月二十日 二十一日

四〇四

藤左衛門殿所かい、

〔異本塔寺長帳〕

四 十七年庚辰、○中 會津家中松本大學謀叛顯、四月十日誅ス、同藤左衛門

〔會津舊事雜考〕

六 十八年辛巳 大永元年  
四月十九日、松本藤左衛門被戮、先日同大學被戮、○會津四家合考異事ナシ、

○盛舜ノ部將松本藏人、猪苗代盛光ニ應ジ、盛舜ヲ陸奥黒川ニ攻メテ敗ル、コト、六月十六日ノ條ニ見ユ、

〔參考〕

〔伊達世臣家譜〕

五十六 松本 三十五 松本姓源、其先出自松本左馬助光重、不知其先、傳言、祖先家信州松本、因氏焉、光重子圖書家輔、仕幕名大膳大夫盛氏、給二萬八千石、平田・松本・佐瀬・富田會津四宿老之一也、家輔子圖書助氏興、氏興子太郎行輔、爲三浦介盛隆、天正十二年六月十三日、戰死于黒川城、盛隆、大膳大夫盛氏子也、黒川城、在會津、○下

二十日、壬 御受戒アラセラル、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

○宸翰集第五所收 四月廿日、受戒之布施扇・杉原、

二十一日、癸卯、參議左大辨甘露寺伊長ヲ、權中納言ニ任ズ、

〔公卿補任〕

六十 權中納言從三位藤伊長、三十八 四月廿一日任、元參議・左大辨、七月

會津四宿老ノ一家

御布施

一日拜賀著陣、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕

○宸翰集第五所收 四月十九日、○中 陽明北御方一位事、○維子、從一位ニ本月二十七日、○房通、權中納言ニ任ゼラル、コト、一條中納言勅役事被申、ト、二年十二月九日ノ條ニ見ユ、中納言者勅役之方々有之、依此内々被仰、左大辨納言勅許、雖有上首七人、以大辨之勞勅許、

〔三水記〕

七月一日、亥、晴、○中略、三條西公條奏慶ノコト、此後甘露寺中納言奏慶、今夜扈從足門外邊侍立、雜色四本、如木・布衣等如常、經上官座、拜舞同前、今度申次藤原氏直也、○高遣戸々查、堂上、有御對面歎、者大納言著陣、移著端座、見官方吉書、頭辨著陣、專了藏人方吉書等如常、此後甘露寺中納言著陣、官方・藏人方等吉書見之、著座辨右少辨也、了退出、

越前毫攝寺ヲ、勅願寺ト爲ス、

〔門下傳〕

○諸院家七 毫攝寺 號出雲路山、善 元天福元年親鸞聖人草創於鴨乾方、又云、於洛出雲路建立、後曆應三年移于越前水落邊山本庄、又云、於越前國山本庄、爲兵火燒失、於于茲移當寺末橫越證誠寺云云、今在越前國味間野邊今立郡清水頭、○中略

善覺

善光

大永元年四月二十一日

四〇五

大辨ノ勞ニ依リ勅許奏慶



大永元年四月二十一日

四〇六

寺家説云、當代永正十五年任權僧正云云、尤不審、永正十八年綸旨云、

當寺勅願所事、被聞食畢、宜奉祈天下泰平寶祚長久者、天氣如此、仍執達如件、

永正十八年

四月廿一日

〔右中力〕〔御願〕  
左少辨資定

毫攝寺善光上人御房

伏見宮邦高親王御猶子第四皇子薙髮セラレ、御名ヲ道喜ト稱セラル、

〔永正十三年八月日次記〕永正十八年四月廿一日、上乘院宮御相續若宮才十九、今夜

上乘院宮御  
相續若宮才  
十九、今夜  
戒師仁和寺  
覺道法親王

御出家、道場此房也、予、〔尊光院〕威師之事可勸之由、依師宮之命、先度領納申了、役人、

宏助法印、教導、了運僧都、剃手、仁瑜僧都、水瓶、大法師石山、祐助、〔實善〕脂燭、〔出家頃事、予沙汰之、先縱有之、〕

人數不足之間、石山住僧折節僧正房被召上候間召加了、向後不可然歟、

道什法親王  
御臨場

亥剋師宮光臨、戌剋若宮入來、於師宮者御輿內江請申入候處、於平地門之外御下輿、御

斟酌之儀有其理歟、若宮〔伏見宮邦高親王〕入小門、則下輿也、五獻之後予改裝束、鈍色平袈裟、堂

前著座、次出家者同著座、作法如常、法名道喜、事訖兩宮御歸房、

廿二日、爲禮弟子宮入來、十帖一本給了、每事窮困之間略儀也、道場已下之事、悉皆僧

正房被申付了、仍僧正房方へ同十帖一本被遣之、

道喜御禮ノ  
爲メ覺道法  
親王ヲ訪ハ  
セララル

廿三日、今日以宏助法印進上乘院宮、一昨夜無爲珍重、仍昨日弟子宮入來、祝著之由申  
之了、昨日則可進之處、依大雨今朝進了、  
〔仁和寺諸院家記〕上乘院宮道喜〔邦高親王〕卿宮御子、永正十四年十一月二十六日、御入室、同  
十八年四月廿一日、於眞光院御出家、十九、戒師御室覺道親王、依上乘院師宮之命如此云  
々、

〔本朝皇胤紹運録〕

第百五 後柏原院諱勝仁、○ 記事略ス、

第百六 後奈良院諱知仁、○ 記事略ス、

仁 覺道法親王二品、號後禪河院、 記事略ス、

仁 僧道喜上乘院、 母掌侍繼子、入道中納言永繼女、〔高倉〕 〇前 後略

〔皇親系〕 七

後柏原院天皇

皇子〇記事 略ス、

大永元年四月二十一日

四〇七



大永元年四月二十一日

四〇八

知仁親王○記事 略ス

覺道親王○記事 略ス

道喜 母藤原繼子權中納言高倉永繼女

入上乘院、永正十八年落飾爲僧、任大僧正、享祿三年三月二十二日薨、年二十八、

○道喜、仁和寺上乘院道什法親王ノ附弟ト爲リ、入室セラル、コト、永正十四年十

一月二十六日ノ條ニ見ユ、興福寺一乘院覺譽得度及ビ受戒ノコト、便宜左ニ合敘ス、

〔永正十八年得度之記〕

○大倉山文化科學圖書館所藏興福寺文書二所收

永正十八年卯月廿一日、

一廿一日、當門跡若公（兼憲）十六歲、御得度、具座出仕

（兼繼）西南院（圓深）權僧正・東門院（兼繼）權少

僧都・光明院（實德）・東北院（良忠）權律師、以上、北中座 修南院（光尊）得業、各鈍色五帖、

（兼繼）指燭役 東門院僧都・光明院、

剃刀手役 東北院律師・修南院得業、

戒和上忍辨、戒師 正法院、

坊僧出仕 好秀辨上座、好藝辨寺主、順實大夫寺主、各鈍色指貫、

掌燈役尊貞、雜役亮乘、信乃寺主、越前寺主、各庇間南方部除、

興福寺一乘院覺譽得度十六歲

增長院

東大寺ニ於テ受戒

一於御袈裟者、戒和上奉授之、於御念珠者、門主（良尊）樣御出仕之時者、直被授申條先規也、  
今度增長院殿無御出仕之間、予爲御師範自兼令懷中、當座自奧座起而奉授了、  
一御法名覺譽、引合ニ枚押折書了、兼繼可沙汰由被仰問書了、脇机ニ參也、當座戒御授申、

一御自身初織水干御著用、五戒之後鈍色御著用、有御出家、鳥居障子御出入以下、

〔賴繼卿記〕

○歷代殘闕日記百所收

大永元年十一月廿九日 宣旨 一乘院也、

沙彌覺譽

沙彌ト書不審、雖然古案披見畢、

宜於東大寺登壇受戒、

（廣德）守光卿曩祖職事時口宣案也、

藏人左少辨藤原（兼盛賴繼）一奉

○口宣草 異事ナシ、

口宣一紙獻上之、早可令下知給之狀如件、

十一月廿九日

左少辨賴繼奉

進上 帥大納言殿（三條西公孫）

二十五日、丁未、備中ノ兵船、薩摩坊津ヲ燒ク、

大永元年四月二十五日

四〇九



大永元年四月二十六日

四一〇

〔西行雜錄〕 薩州坊津一乘院所藏年代記抄出

大永元年辛巳四月廿五日、備中兵船燒拂坊津、

○備中三宅國秀、琉球ヲ攻略セントシ、兵船ヲ率キテ薩摩坊津ニ泊シ、島津忠隆ニ殺サル、コト、永正十三年六月一日ノ條ニ見ユ、

二十六日、申、戊蘆名盛舜、長沼實國ヲ擊タントシテ出陣ス、尋デ、伊達植宗ノ斡旋ニ依リテ和解シ、軍ヲ班ス、

〔塔寺八幡宮長帳〕 六 ○永正十八年某書 ○上 ○岩代 ○略 ○長沼實國 ○又みなみの山勢ひたまへ入、とくくやき候、みなく打死つかまつり、一騎もかゑらす候、

四月廿六日、(備中盛舜)屋形さまみなみの山へ御馬を被出候、五月上旬ニ御ふいたてよりして御あつかいに、御馬を被入候、

〔異本塔寺長帳〕 四 (永正)十七年庚辰、○中同田嶋城主長沼悪五郎實國、葦名家ヲ欲攻、

四月廿三日ニ檜玉村ニ陳ス、近村ヲ放火ノ十六日、葦名盛舜馳向、于時和睦ス、○コノ記元年ニ在ルベキモノノ、永正十七年ニ錯入セルモノナルベシ、

〔會津舊事雜考〕 六 (永正)十八年辛巳 大永元年 南山賊兵襲來于檜玉 (今福永也)、放火、即黒川發兵伐馬、(馬力)一騎不脱、

實國檜玉ニ放火シ敗北ス

盛舜亡兄盛滋百ヶ日供養ノ爲メ退陣

廿六日、盛舜發兵到南山、

五月二日、盛舜被攻於南山城矣、追日營於亡兄百ヶ日法事、故伊達氏爲謀救、盛舜輟兵

還黒川、○會津四家合考異事ナシ、

〔伊達家文書〕 一

〔長祿年中ノ以後會津家と伊達御家之事覺書〕

覺

一 (後柏原院)同帝大永元年辛巳五月二日、會津守護葦名遠江守盛舜公、會津南山長沼氏を攻て御合

戰、去二月七日、御舍兄盛滋公御逝去、近日百ヶ日之御法事ニ相當リ申候、○盛滋卒スルコト、二月七日ノ見ユ、依之、從伊達家和睦之御取扱被成、盛舜公追付御歸陣之由、覺書ニ見え申候事、

大永元年辛巳より、延寶四年丙辰迄百五十六年

〔會津盛衰記〕 一 葦名盛滋御薨去盛舜御相續の事

○上 斯る所ニ會津伊南伊北の諸士、盛舜の武威や蔑しけん、同四月、今の福永、其比ハ檜玉と唱し所ニ、襲來て放火し、入亂ニ及ひしかハ、盛舜則勢兵を發して圍まれけるに、凶徒壹人も不殘討れにけり、同廿六日ニハ葦名盛舜南、山伊南伊北ニ進發有テ、同五月二日ハ責戰ハれけるか、御舍兄盛滋江百陰の御追善有へき爲ニ先黒川ニ引返さる、

大永元年四月二十六日

四一一



大永元年四月二十七日

鳴山城

略○下

〔參考〕

〔新編會津風土記〕

三十九 陸奥國會津郡之十二 田島組 古蹟

鳴山城趾

村南山麓ニアリ、本丸東西

四十六間、南北十三間、外郭東西一町十間、南北二町五十間、土居空隍ノ形存セリ、

又土門・大門ト云二門ノアリシ跡ナリトテ、石垣今ニ殘レリ、東北ノ方ハ地形漸漸ニ低

ク、民家ニ續キ、西南ハ岩山ニヨリテ要害トス、鎌倉右大將家ノ時、長沼惡五郎家政

ト云者、下野國結城長沼ヨリ此ニ來リ、始テ住シ、其子孫代代此所ニ居リシト云、長祿ノ

頃、長沼政明ト云者アリ、河島組絲澤村龍福寺 二政明カ位牌アリ、塔寺村八幡宮長帳ニ、長祿二年、此城ニテ合

戰ノ事ヲ記セルハ、政明カ時ニヤ、又明應・大永ノ頃、長沼盛秀ト云者アリ、巖斗戸組井

社及湯入村日光神 社ノ板札ニ載ス、永正十八年黒川ヲ攻ントテ、檜玉峠 大沼郡橋爪 組福永村 マテ兵ヲ出セシカ、殘ラス

討レタル由、長帳ニ見エタリ、此盛秀カ時ニヤ、一説ニ、此事ヲ豊後守 實國ト云者ノ時トス

二十七日、西、己即位女敍位、藤原維子ヲ從一位ニ、藤原内子ヲ從三位ニ

敍ス、マタ、知仁親王・貞敦親王ヲ竝ニ二品ニ敍シ、權大納言三條西

公條ヲ二品親王家別當ト爲ス、

大永元年四月二十七日

執筆大炊御門經名徳大寺公胤

入眼上卿冷泉爲孝

近衛尙通室維子

〔公卿補任〕

六十

内大臣正二位藤經名、〔大炊御門〕

四月廿七日女敍位執筆、

同公胤、〔徳大寺〕

四月廿七日女敍位執筆、

權大納言從二位同公條、〔三條院〕

四月廿七日二品親王家別當、

權中納言從二位同爲孝、〔命世〕

女敍位入眼上卿、〔貞敦親王〕 奉行イ

〔女敍位聞書〕

○京都御所東山御文庫 記録甲二百七十三所收

從一位藤原維子、〔徳大寺〕 從一位藤原朝臣室、〔近衛尙通〕

從三位藤原内子 〔藤原〕 襄帳、

從四位下藤原守子 〔藤原〕 典侍、

正五位下藤原藤子 〔勳修寺〕 掌侍、

菅原松子 〔東坊徳〕 襄帳、

從五位下 顯子王 〔命世〕 命婦、

和氣親子 〔藤原〕 藤原隆子 〔從一位藤原朝臣給、〕

藤原之子 〔御匣殿 藏人、〕

源源子 〔藤原〕 典侍、

藤原繼子 〔高倉〕 掌侍、

藤原濟子 〔姉小路〕 掌侍、

賀茂氏子 〔藏人、〕

藤原隆子 〔從一位藤原朝臣給、〕

大永元年四月二十七日



大永元年四月二十七日

四一四

平作子 内教坊、

玉手美子 采女、

貞誠子 女史、

綾繁子 掌縫、

源潔子 水取、

外從五位下長柄只子 執翳、

常隆照子 〔禮〕女孺、

永正十八年四月廿七日 ○女王記諸抄異事ナシ、

二品知一親王 〔禮〕

此聞書有之、女敍位之次被付行之間、如此候、

貞敦親王

永正十八年四月廿七日

〔永正十八年四月廿七日女敍位申文等〕

○京都御所東山御文庫記録甲二百七十五所收

申文  
典侍廣橋守子

典侍正五位下藤原朝臣守子誠惶誠恐謹言、  
請殊蒙天恩、因准先例、被敍從四位下狀、  
右守子、謹檢案内、御即位之時、勤褰帳之役、浴加階之恩者、古今例也、登庸之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、被敍加階者、彌仰奉公之不空矣、守子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

典侍正五位〔下脫之〕藤原朝臣守子

同勸修寺藤子

典侍從五位上藤原朝臣藤子誠惶誠恐謹言、  
請殊蒙天恩、因准先例、被敍加階狀、  
右藤子、謹檢故實、依當職之勞、浴加階之恩者、佳例也、爰藤子、稟譜代之跡、抽奉公之忠、拜敍之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、依當職之勞、被加一階者、將勵奉公之忠節矣、藤子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

典侍從五位上藤原朝臣藤子

同庭田源子

典侍從五位上源朝臣源子誠惶誠恐謹言、  
請殊蒙天恩、因准先例、依奉公之勞、被敍加階狀、  
右源子、謹考故實、依當職之勞、浴加階之恩者、古今之例也、爰源子、稟譜代之跡、抽奉公之忠、拜敍之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、依當職之勞、被加一階者、將勵奉公之忠節矣、源子誠惶誠恐謹言、

大永元年四月二十七日

四一五



大永元年四月二十七日

永正十八年四月廿七日

典侍從五位上源朝臣源子

四一六

掌侍東坊城松子

掌侍從五位上菅原朝臣松子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、被敍加階狀、

右松子、謹檢案内、仕掌侍、望階級者例也、爰松子、居勾當之職、勤勞積年序、採擇之處、誰謂非據、望請、天恩因准先例、被加一階者、彌知勤王之不空矣、松子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

掌侍從五位上菅原朝臣松子

同高倉繼子

掌侍從五位上藤原朝臣繼子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依奉公勞、被敍一階狀、

右繼子、謹檢案内、依掌侍勞、浴加階之恩者、聖代佳例也、爰繼子、抽奉公之忠、拜敍之、〔處服之〕誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、依當職之勞、被聽加階之恩者、將勵奉公之忠節矣、繼子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

掌侍從五位上藤原朝臣繼子

無位顯子王

無位顯子王誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、被敍爵狀、

右顯子王、謹檢案内、御即位之時、勤褰帳之役、浴榮爵之恩者、古今例也、登用處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、被敍者、彌仰奉公之不空矣、顯子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

無位顯子王

掌侍姉小路濟子

掌侍正六位上藤原朝臣濟子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依當職勞被敍爵狀、

右濟子、謹檢案内、仕掌侍、望敍爵者例也、爰濟子、夙夜在公、拜趨無私、採用之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、被敍爵者、彌知勤節之不空矣、濟子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

掌侍正六位上藤原朝臣濟子

大永元年四月二十七日

四一七



命婦和氣親子

大永元年四月二十七日

四一八

命婦正六位上和氣朝臣親子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依奉公勞、賜敘爵狀、

右親子、謹檢案內、依當職之勞、浴敘爵恩者、聖代佳例、明時之芳躅也、爰親子、夙夜在公、拜趨無私、採用之處、誰謂非據矣、望請、天恩因准先例、被聽敘爵之恩者、將仰聖澤之無偏、親子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

命婦正六位上和氣朝臣親子

藏人賀茂氏子

藏人正六位上賀茂縣主氏子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依奉公勞、被敘爵狀、

右氏子、謹檢故實、依當職勞、被敘榮爵者、古今例也、爰氏子、稟譜代之跡、抽奉公之忠、拜敘之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、依當職之勞、被敘爵者、將竭奉公之忠節矣、氏子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

藏人正六位上賀茂縣主氏子

御匣殿藤原之子

御匣殿

請殊蒙天恩、因准先例、以正六位上藤原朝臣之子、被敘從五位下狀

右、得之子款狀備、依官仕之勞、關榮爵之恩者例也、爰之子、自補當職以來、夙夜之勤越等倫、今加覆審、所申有實、望請、天恩因准先例、以件之子被敘榮爵者、將浴無偏之恩澤、彌仰有道之德化矣、仍勒在狀、謹請處分、

永正十八年四月廿七日

命婦從五位下豐原朝臣年子

從五位下安倍朝臣昌子

准三宮前太政大臣家給藤原隆子

准三宮前太政大臣家

正六位上藤原朝臣隆子

望女爵

右當年御給女爵、所請如件、

永正十八年四月廿七日

大永元年四月二十七日

四一九



大永元年四月二十七日

四二〇

内教坊平作子

内教坊

請殊蒙天恩、因准先例、以年勞正六位上平朝臣作子、被敍榮爵狀、右得作子款狀備、謹檢故實、依坊家之勞、關敍爵之恩者例也、爰作子、久仰望雲之化、頗傳迴雪之藝、今加覆審、所申有實、望請、天恩因准先例、被敍從五位下者、忽浴明時之恩、彌歌治世之曲矣、仍勒事狀、謹請處分、

永正十八年四月廿七日

命婦正六位上和氣朝臣親子

采女玉手美子

采女正六位上玉手朝臣美子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依當職勞被敍爵狀、

右美子、謹檢案內、依采女之勞、進五位之列者、承前之例也、爰美子、自居當職以來、有勞無懈、拜敍之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、依奉公之勞、被敍敍者、將仰有道之化、益勵無貳之忠矣、美子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

采女正六位上玉手朝臣美子

内侍所女史貞誠子

内侍所

請殊蒙天恩、因准先例、以女史正六位上貞朝臣誠子、被敍榮爵狀、右得誠子款狀備、依女史之勞、預爵級者、承前之例也、爰誠子、久積當職之勞、未達敍爵之望、今加覆審、所申有實、望請、天恩因准先例、以件誠子被敍從五位下者、將浴無偏之恩波、彌歌有道之德音矣、仍勒事狀、謹請處分、

永正十八年四月廿七日

掌侍從五位下菅原朝臣松子

掌縫綾繁子

掌縫正六位上綾朝臣繁子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依奉公勞、被敍從五位下狀、右繁子、謹考舊實、依當職之勞、浴敍爵之恩者、古今之恆規也、爰繁子、拜趨有功、奉公無闕、登用之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、被敍從五位下者、將知聖猷之貴、彌竭貞節之忠矣、繁子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

掌縫正六位上綾朝臣繁子

大永元年四月二十七日

四二一



大永元年四月二十七日

四二三

水取源潔子

水取正六位上源朝臣潔子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依當職勞、預榮爵狀、

右潔子、謹檢故實、依水取之勞効、浴敍爵之恩澤者、古今不易之通例也、爰潔子、自居當職以來、未倦夙夜之勤、拜敍之處、誰人謂非據乎、望請、天恩因准先例、被敍榮爵者、彌勵忠節矣、潔子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

水取正六位上源朝臣潔子

執翳長柄子

執翳正六位上長柄首只子誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依奉公勞、被敍爵狀、

右只子、謹檢舊實、依奉公之勞、預敍爵之恩者、古今之例也、爰只子、久補采女之職、飽積拜趨之功、加之進大禮之砌、勤執翳之役、登用之處、誰人謂非據乎、望請、天恩因准先例、被敍榮爵者、將仰有道之德化矣、只子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

執翳正六位上長柄首只子

主殿女孀常  
燈照子

主殿女孀正六位上常澄宿禰照子〔與、下同〕誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依奉公勞、被敍從五位下狀、

右照子、謹考故實、依當職之勞、關榮爵之恩者、承前之例也、爰照子、奉公積年、拜趨累日、其勞越等倫、登用之處、敢謂非據乎、望請、天恩因准先例、被敍從五位下者、將知奉公之貴矣、照子誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

主殿女孀正六位上常澄宿禰照子

內侍所圍司  
大庭護子

內侍所

請殊蒙天恩、因准先例、以圍司正六位上大庭造護子、被敍從五位下狀、

右得護子款狀備、依圍司之勞、預爵之恩者、聖代明時之通典也、爰護子、雖有多年之勞、未加五品之列、今加覆審、所申有實、望請、天恩因准先例、以件護子被敍從五位下者、將知奉公之不空矣、仍勒在事狀、謹請處分、

永正十八年四月廿七日

掌侍從五位下菅原朝臣松子〔上力〕

大永元年四月二十七日

四二三



大永元年四月二十七日

東賢子正六位上紀朝臣季明誠惶誠恐謹言、

請殊蒙天恩、因准先例、依當職勞、被敘從五位下狀、

右季明、謹檢案内、依當職之勞、預五品之爵者、聖代之恆規、明時之佳猷也、爰季明、積奉公之勞、企拜敘之望、昇進之處、誰謂非據哉、望請、天恩因准先例、被敘從五位下者、將仰皇化之莫太、彌知奉公之不空矣、季明誠惶誠恐謹言、

永正十八年四月廿七日

東賢子正六位上紀朝臣季明○柳原家記  
錄異事ナシ

女官加階敘位ノ例

勘申 女官加階敘位例事

加階例○例  
略ス

右補任歷名等帳、所注如件、仍勘申、

永正十八年四月廿七日

掃部頭兼大外記造酒正博士河内守中原朝臣師象勘申○菊亭  
文書異

事ナ

女官敘位次第

勘申 女官敘位次第事

康正三年正月廿八日、大中臣浪子敘從五位下水取

敘位ノ儀

文正元年四月十五日、紀季明敘從五位下東賢子、  
同年十二月廿九日、宮道氏子敘外從五位下國司、  
右歷名帳、所注如件、仍勘申、

永正十八年四月廿七日

掃部頭兼大外記造酒正博士河内守中原朝臣師象勘申

〔拾芥記〕

下 四月廿七日、夜、女敘位被行之、御前執筆内大臣、經名入眼上卿冷泉中

納言、爲孝御前之儀終執筆退、於殿上授簿書入眼上卿、五條爲兼々々給簿、取副笏下殿著陣、以  
官人召大内記、五條爲兼々々々參軾、仰云、位記、大内記退、出宣仁門、率少内記兩人入宣仁門、  
著軒廊座、令少内記置手文筥於座前、次少内記著座、次下藤少内記置覽筥三合於少内記  
前、然而又著座、次上卿目大内記、親王簿々々々參軾、賜簿二通、女簿給之退著座、次取出  
位記・硯等、見合于簿、加袖書之姓名、次合點于簿、見次第、調位記入筥也、先親王位記  
知仁親王  
貞敦親王、二卷入一筥、次女位記入一筥、重男筥於上、以少内記進上卿前、上卿披見之、  
其間大内記退出、手文筥令少内記撤之、次上卿令持位記筥二合於少内記一人、就弓場奏  
聞、左少辨賴繼取之奏聞、返給云、令請印ヨ、上卿歸著陣、召將監給位記筥二合、輔代・將  
監藏人  
兼將給之置案上、少納言高倉範久請印、立案東、輔代立案南、北向、少内記立案西、東向、  
也、兼將給之置案上、少納言高倉範久請印、立案東、輔代立案南、北向、少内記立案西、東向、

大永元年四月二十七日



大永元年四月二十七日

四二六

大内記所知及親王御所及仁親王御所親王御所ニ位親王ヲ持參ス  
女位記ハ後ヨリ長橋局ヨ

向少納言、々々々請印、一々終、少内記相助卷之入筥、請印畢少納言退下、次輔代取位記筥、置上卿前退、次上卿召少内記、令持位記筥二合、就弓場奏聞、賴繼取之、入自上戸、自臺盤妻戸進之、女位記筥留御前、今度親王位記筥返給上卿、々々令持少内記著陣、少内記置上卿前、上卿召留少内記、給男位記筥、少内記取之退、渡大内記、々々々取之、次上卿退出、大内記束帶、次親王御方位記入蓋、(知仁親王)經議定所前參親王御方御所、其儀、進位記於内侍、(卿内侍)内侍取之被進親王御方、則御對面、退出、次伏見殿(貞敦親王)二品位記持參之、家司庭田重親朝臣取次之進之、御對面、退出、女中位記内々後日自長橋局被遣之云々、内記敍位御訪并宮御方位記料御下行、彼是三百疋被出之、但百疋未下也、自伏見殿未給御禮物、

〔二水記〕 四月廿七日、於下冷泉亭朝食有相伴、入夜參内、今日女敍位被行之、於常御所御盃參了、此後撰定了、敍位被始、執筆内大臣、(經名公)入眼上卿冷泉中納言(爲孝也)、

委細別記之、(別記所見ナシ)

廿八日、當番令相博廣橋了、參宿、則參御方御所、(守光)敍品之御禮申入了、

〔後柏原天皇宸翰宸記〕 (宸翰集第五所收) 四月七日、(中略) 女敍位之風記進之、參仕之御點申

女敍位ノ風記

出、執筆内府、入眼上卿冷泉中納言、(大略中納言相當也)近衛次將(持明院)基規朝臣・少納言範久等被仰、

九日、(中略) 女敍位御點申出、賴繼、

十九日、(中略) 女敍位ニツキテ、女中ノ加階敍爵之趣シルサレテ、奉行ニ出サル、

陽明北御方一位事、(房通)一條中納言勅役事被申、(中略)房通、(勅)中納言ニ任ゼラル、(勅)自中務卿親王被

申二品事、

廿八日、自中務卿宮、金太刀・馬被進、敍品之禮云々、

〔宣胤卿記拔書〕 四月廿四日、晴、頭左中辨秀房朝臣・藏人右少辨尹豐等來、問女

敍位事、短冊袖書之樣注遣之、

典侍申加階、

掌侍申加階、或申爵、

命婦申爵、

藏人申爵、

御匣殿、或袖書、

女史 是以下、申爵ノ二字無之、

短冊袖書

大永元年四月二十七日

四二七



大永元年四月二十八日

四二八

采女 袖書

坊家 主殿女孀 或切杭ト云之、

水取

東賢子

圍司

掌縫

三子ノ末也、自古

名字李明同名也、

已上短冊、申爵、此二字無之、

〔本朝皇胤紹運錄〕

第百六

後奈良院

諱知仁、母准后藤子、贈左大臣教秀公女、

同十八四廿七、敍二品、

○皇胤紹運圖・皇年代私記異事ナシ、

〔伏見宮御系譜〕

五代 邦高親王

六代 貞敦親王

母今出河左大臣教秀公女、

延徳元己酉年三月日誕生、○中直敍二品、

二十八日、庚戌幕府、松壑貞元ヲ建仁寺住持ト爲ス、是日、松壑、入寺ス、

入寺法語  
山門

〔松岳和尚建仁入寺法語〕

永正十八年

山門

指門、東山左邊底、西來直下孫、驟步顧、視左右、大众相隨來也、青松行盡到山門、喝、

佛殿

雪北□南、潦倒瞿曇、退後々々、要識法身麼、山花開似錦、澗水湛如藍、

土地

滿堂八九人土地、榻外不容他鼾睡、張真君聳天下、神爺命佛位、

祖師

黃穀棘赤鬚鬚、以坐具、作打勢、叱趕出欄外付與耕夫、

室

拈篋、（道）大寂喚之曰金雞粟、（靈能）曹溪喚之曰碓背花、者裏喚作什麼、彩奔毘家、

帖

學帖、這ヶ、把住則去年梅、放行則今歲柳、煩綱維以朗宣、顔色馨香依舊、

山門疏

大永元年四月二十八日

四二九



大永元年四月二十八日

四三〇

山門之有耆舊、猶如叢林喬木、好々文章、玉浪々錦簇々、

諸山

趙州西石橋北、天竺後靈隱前、見變、鳴嶋諸國、星河一天、

道舊

九峰爲大覺作疏、華袞非榮、古今無隔、白髮千莖、

江湖

舉疏、這裏主人阿誰、嚴灘釣臺和尚、若問畢竟事如何、洞庭山在太湖上、

同門

慈明開大爐燼、鑄出楊岐・黃龍、(方會)舉疏、此是一家鼓吹袖、槌來聽響玲瓏、

拈衣

牛皮一片、無相福田、搭衣、犁把扶上春風肩、

登座

納須彌於芥中、擲虛空於方外、燈王々々、是甚熱火、

祝香

諸山

道舊

江湖

同門

拈衣

登座

祝香

居九五尊以巡狩、東嶽爲春南嶽爲夏西嶽爲秋北嶽爲冬、容大千界於提封、初禪如鄉二禪、(今)如縣三禪如州四禪如國、王京兆今賀表于皇帝即位、張員外仰潤色于聖節開堂、

檀香

這香、蕪向寶爐、奉爲大檀越征夷大將軍從三位行權大納言資倍祿算、伏惟、荆國公厭京洛塵歸半山、終題福建字、(前)蕪內相相遇儋萬雨遊四州、暫問諸黎家、譬之菩薩意生身、慕甚聖者不還果、我待來暮、民歌式微、

嗣香

山野、甫撞著大章老、一言終無老婆心切、直向青松社、入師叔桂林翁室、一句又無衲子窠、這裏冷啾々空索々、借甚麼黃檗力、借甚麼大愚力耶、ヶ爛枯柴、自飯艱山頭收拾將來餘四十年、風摧根柢、露壞枝柯、雖香氣全無、欲供養前住東山後住南禪桂林老和尚、定中拓開云、非干我事、不獲止一爐拋向、奉大章老骨槎、不圖酬恩報德、且要教知天下人有松源毒種蘭溪惡芽、

垂示

大永元年四月二十八日

四三一



大永元年四月二十八日

四三二

提綱

文殊三處度夏、善財四月出參、新清涼、不墮舊轍、看々、半岩花雨落毳々、有麼、

提綱

今朝萬歲佛出世、其形黑如漆桶、其面黃似蠟鞭、絞牛乳煮成道糜、日夕是臘極八日、結螺髮舞度住棹、年々是四十九年、脫體無依、足割千輪之肉、全機瞥轉、胸刮萬字之肝、青草池塘處々蛙、不墮釋迦文後、黃毒〔毒〕家、何拘阿逸多先、空假中珠簾滕〔關力〕雨半捲、序正通琅函謝家春幾篇、拈杖、看々、山僧拄杖子、被一時活弄、丈六□小劣應身忽變作、音聲無邊、色相無邊、坐斷二十重華藏界、放光三千與大千、煒々煌々、換却荆棘瓦礫、塵々刹々、衣被草木山川、雖然恁爲〔靈覺力〕衲僧家尋常茶飯、摠是打之遶于外邊、即今別有祝贊一句、試聽主丈子々細指宣、〔卓〕蟠桃吹香御苑、椿樹散影堯天、

自敘

自敘

四三懶僧、六五鈍使、諸老推挽辱飛鶻薦之章、然山林簔笠念未忘、狂奴歸來欲問鷗盟之舊、況世間箕斗名彌虛、

白槌

白槌

南禪堂頭大和尚〔宗恩〕、法社活馬、空門登龍、福壽無量、南拙老人朝斗、宗乘有自、東海兒孫日

諸山謝

諸山謝

多、僉曰德尊爵尊齒尊、矧亦禪熟詩熟文熟、伏蒙回象馭鳴〔推〕韃稚、作法證明、不任感戴、仰願尊昭、

鹿苑謝

鹿苑謝

天龍堂頭大和尚、等持堂頭和尚、麗天五星、支地八柱、隨身飛樓湧殿、他化金色、化樂赤珠、知足雪色、夜摩瑠璃、忉利瑪瑙、四玉頗璃、滿肚論海經江、源于漢、流于晉、瀾漫於宋魏齊梁陳隋唐者、以小德小見、管窺之蠡測之、則猶如醯雞而說大鵬、夏虫之議層冰也、何敦插〔敢力〕指於其間哉、吁盛哉、伏乞各々恕宥、

兩序謝

兩序謝

鹿苑堂上老師大和尚、翠毛獅子、金□鹿王、圓庵僧之固遷、任僧錄弘天下師道、〔佛〕日武之韓白、述武庫立向上機關、所願不倦什門三千學徒、以保趙州七百〔談〕、伏乞、慈悲道昭、

山門東西序、諸位西堂和尚、單寮、蒙堂、前資、辦事、天下宿德、江湖名勝、四來高賓、一會海衆諸位禪師、雖可逐一褒贊、今日開堂、端爲祝聖、不敢涉繁詞、伏望昭亮、

大永元年四月二十八日

四三三



大永元年四月二十八日

四三五

拈提

記得、僧問虎丘、爲國開堂一句、作麼生、丘曰、一願皇帝萬歲、二願重臣千秋、且道、那裏是虎丘爲人處、若有人致恁麼問、新東山祇對他道、曾聞黃鶴樓、崔顥題詩在上頭、

〔幻雲稿〕

疏 松壑和尚住建仁山門、諱貞、

去年印今年印、來何暮耶、上水船下水船、與其進也、急流勇退非我所欲、靈區異產係衆具瞻、先哲磐固皇基、得瑞石於萬歲山下、後學嘗過法味、頌甘露於六祖塔前、不唯天降休祥、且復地多勝事、某、機撞玉斗、文咲繡屏、道契一人、大覺入北闕而賜御頌、位登五位、澄觀會西來而譯梵經、蓋禪與教惟同、猶儒於釋相合、三轉語參松源話、知謂之知仁謂之仁、五言詩學桂林僧、聞所不聞見所不見、有佛灯之破諸闇、無客星之奪大明、時哉動地放光、說甚安居禁足、同來野僧六七輩、况集群賢、大聖天子初元年、冀熙庶績、

去年庚辰冬領帖、今年辛巳四月廿八日入寺、公乃爲桂林法姪、自少侍桂林側、伊州有寺曰萬歲、寂室山上之寺曰瑞石山、(德也)

〔寅閣疏〕

同門 松壑住建仁、大永改元、即永正十八年也、

新天子定天下、當建中第一曆支干、今京兆理京師、合正元十八載制度、(柳文、今京兆尹理京師云々、藏叟文集)爰逢世運恢復、足慰宗風陵遲、所謂伊人、無念爾祖、某、學源衰々、襟宇堂々、禪至大惠書至

龍崇作同門

壽陵作江湖

君謨、得心應手、(三叟文集)文稱師魯詩稱子美、誦口行身、軼群作時輩望崖、輔教才宿匠虛左、愚知其瑞、佛灯景星鳳皇、(佛灯)人服其威、悟空象王獅子、諸公排闥入讓、闔衆撞鐘出迎、少游、庭堅同門友朋、性得久要、君實、景仁異姓兄弟、言如一人、(源流至論)

〔併驪集〕

江湖 松岳住建仁

景甫

太極殿賀唐帝即位、際天下中興時、半山寺記宋相考盤、卜江南佳麗地、王法寔佛法也、台星豈非文星耶、出處无恆、古今相似、某、風襟月憶、玉應金春、松出岳兮十里風聲、鬱爾東山遺躅、柏參天兮千尺黛色、依然西來單傳、挑灯於廣續普聯、負笈於河汾伊洛、甘露門下、(佛藏講記)寂音留八景之品題、清涼山中、文殊當四月而降誕、蠟冰禁夏、華雨飄空、金翅栖詹旬林、佛運所繫、白鷗依菩提樹、社盟未寒、(元貞)

〔建仁寺住持位次簿〕

二百六十七世、松壑和尚、(元貞) 二百六十七世、(元貞) 永正十八年

辛巳四月廿八日入寺、

〔扶桑五山記〕

四山 城州東山建仁禪寺 二百六十七世、松壑 眞、(元貞) 同年四月廿八日、諸山相國叔原、(宗覺)

〔東山歷代〕

城 二百六十七世、松壑 眞、(元貞) 嗣大章繼、(經) 嗣傑岩偉、(經) 嗣靈仲禪英、(經) 嗣寂室元光、(經) 勢州長野慈視菴人、住傳芳院、(略)

大永元年四月二十八日

四三五



大永元年四月是月

四三六

〔山上宗譜圖〕 曹源門派

永大章元繼——建仁二百六十七代、永正七西堂、  
源大章元繼——建仁二百六十七代、永正七西堂、  
勢州長野慈觀庵開基、

伯耆守某、豊前高村信氏ヲシテ、宇佐八幡宮土器長職・高村惣名田畠  
屋敷等ヲ安堵セシム、

〔大分縣〕 宇佐郡諸家古文書 八 下高村高牟禮氏宗所藏

宇佐宮土器長職・高村惣名田畠屋敷并一村内檢斷等事、先證明白也、然者御代々云御  
判、云筋目、任當知行之旨、氏盛嫡子信氏令相續上、任先規社例、每事被致其沙汰、社  
役等不可有相違之狀如件、

永正十八年卯月二十八日

伯耆守 丞

高村土器長殿

是月、皇大神宮神主等、加階ヲ請フ、

〔永正十八年内宮假殿遷宮記〕

皇大神宮神主

注進

皇大神宮神  
主解狀

御即位加階

右太神宮正權禰宜并新敍輩、就御即位加階、同伍位預恩賞、依先例先年致注進者也、假  
殿遷宮以前被調下、神宮一同奉成喜悅、遂行假殿遷宮者、天下安寧聖運長久御祈禱、何  
事如之哉、爰假殿御裝束用途物等、以御節忠可被相調由、雖被仰下、先規相違注文致進  
上者不可然、神慮又如先例者、難調之由被仰出條、委細段祭主伊忠令言上者也、以此  
趣、御裝束用途物等、加階五位被相調下者、天下泰平國土安穩御祈禱爲抽丹誠、注進如  
件、

永正十八年卯月 日

大小内人

同前十人

○大神宮神主等、即位及ビ遷宮ノ勸賞トシテ、加級セラレンコトヲ請フコト、永正  
十六年十二月是月ノ條ニ見ユ、

石見出羽城主高橋興光、青屋友梅ヲ安藝青屋城ニ攻メテ戰死ス、仍  
リテ、毛利元就、青屋城ヲ圍ミ、之ヲ陷ル、

〔溫故私記〕 一 青屋城攻并高橋大九郎興光討死之事

一大永元年夏、高橋大九郎興光ト、備後ノ三吉修理太夫隆亮ト青屋ノ城ヲ爭ヒ、高橋大

興光三吉隆  
亮ト青屋城  
ヲ爭フ

大永元年四月是月

四三七



興光友梅ノ部下ニ討タル  
遺臣等松尾城ニ籠ル

興光ハ毛利幸松丸ノ外祖父松尾城ヲ援ク三吉氏ノ兵來リ攻ム

九郎三千餘騎ヲ以テ青屋ノ城ヲ取圍ミ、城ノ一方ヲ明、三方ヨリ攻メ懸レハ、城兵一方ヨリ悉ク落失候、寄手ノ兵城ヲ攻ヲトシ、北ルヲ追掛、首百餘級討捕リ、手毎ニ首ヲ提テ來ル、即チ高橋實檢シテ床机ニ腰ヲカケテ居タル處ニ、落行城兵數多取テ返シ、高橋ニ打テ蒐ル、高橋モ暫ク戰フト雖モ、遂ニ高橋ヲ討捕テ首高ク指上、今日ノ軍ニ高橋カ軍兵凡城ヲハ乘リ取リタレトモ、大將高橋ノ首ヲハ青屋入道友梅カ手ノ者討取タリト喚リ、備後ノ三吉カ方ヘ引退ク、高橋方佐々部式部少輔光茂・岡伊豆守教包・湯ノ佐渡守家綱無是非存、高橋カ家城石州横田村松尾ノ要害ヘ引籠リ、人數ヲ催シ、三吉カ兵寄來ラハ主君ノ敵ヲ可討取ト令評定之處ニ、元就公此由ヲ被聞召、高橋ハ幸松丸殿之外祖父ナレハ、早速元就公蒐付玉ヒ、假令三吉カ軍兵何千餘騎來ルモ、元就カアラン限りハ心安カレト宣ヘハ、家臣共忝存シ、手ヲツカネ御家人ノコトク付隨ヒ、奉仰事限ナシ、然處ニ三吉カ軍兵トモ、高橋カ松尾ノ城ヲ切取シト、久代修理亮・多賀山伯耆守等五千餘騎、大永元年四月十日、松尾ノ城江寄蒐ケ、攻戰フトイヘモ、元就公被助合、三吉カ勢ヲ追拂ヒ玉ヘハ、漸々青屋ヲサシテ引退ク、同月十五日、元就公進ンテ青屋ノ城ヲ攻メ玉ヘハ、三吉・多賀山・久代不叶シテ引退ク、城ニ

青屋城水關乏シテ降ル  
興光ノ遺領元就支配ニ歸ス

ハ青屋入道友梅カ手勢一千餘騎アリケルヲ、無殘討取り、高橋興光ノ孝養ニセント稠數被攻ケレハ、城中水ノ手モキレ、防戰難叶、降參ノ御理リ申ニ付、被助一命、友梅下城仕候、仍而元就公モ歸陳シ玉フ、夫ヨリ愈高橋カ家人、元就公ヲ依奉仰、高橋カ所領一萬六千貫、ヲノツカラ元就公ノ所領ノ様ニ相成ル事、

〔吉川家史臣略記〕

吉川興經

大永三年三月

石州出羽之城主高橋大九郎、備後國青

屋之城を圍攻、城主青屋入道友梅か手之者、防かねて皆落去、寄手或ハ城に乗、或は逃を逐行、高橋父子纒（イッパ）之十騎計を從て床几に腰かけて居けるを、落行敵是を見て、百餘人取而返して、高橋父子を討取る、是に依て高橋勢は敗北して、石州出羽之城へ逃歸る、三吉修理大夫は高橋と不和にして、青屋之城を圍を聞て、後詰せんと擬する折節、高橋父子討れたれハ、是を幸として、石州出羽之城へ寄せんとす、高橋か家人、大將ハなし、如何いせんと周章す、毛利元就これを聞而、高橋は幸松丸之外祖父なり、是を見繼すんは有へからすと云て、手勢五百計之而出羽之城へ入、高橋か家人大に悦て、元就之從ふ事主人之如くす、其より後は、高橋か領地一萬六千貫、をのつから元就之支配となる、四月十日、三吉修理大夫並之其一族久代・高野山・木梨・檜崎等五千餘人青屋迄出張



す、毛利元就、高橋か弔合戦をすへしとて、吉田・多治比之兵と高橋か家人を相加、三千餘人を率して、同月十五日こ出羽を出而、青屋之城へ發向す、三吉・高野山等ハ、元就出羽に有由聞て、青屋方己か城々へ立歸、されとも青屋之城を敵に取れしとて、八百餘人を青屋に加勢す、青屋友梅此勢を合て一千餘人籠居たり、元就城下へ押寄せて、晝夜十四五日責ければ、青屋友梅叶ひて終に降參す、○安西軍策・三家誌・陰徳記異事ナシ

〔續武將感狀記〕

二 青屋入道以精米洗馬事

一大永ノ頃、石見國ニ青屋出羽守入道友梅ト云老功ノ兵アリ、丹治元就三千五百餘騎ニテ押寄、城ヲ圍ムト十重廿重ト云ヘシ、入道能防戰シテ、城中ノ兵氣凜々タリ、寄手多勢ナリト云ル、日々討死スルモノマタ少ナカラス、唯コノ城ニ水乏シキ由ヲ聞テ、用水ツキハ没落スヘシ、サノミ手痛ク責テ人ヲ損スルコトナカレト、口々ヲ堅メテ對陣ニ日ヲ暮ス、城兵結句コレニ氣ヲ屈セリ、入道日毎ニ雪ノ如クナル精ノ米ヲ水桶ニイレ、馬共ヲ多ク引出シ、頭ヨリ草寸マテ洒サセケルホトニ、餘處ヨリハ、水澤山アリテ、馬ノ頭ヒヤシ湯洗ヒスル様ニミヘケレハ、寄手案ニ相違シテ、扱ハ城中ニ水ハ多カリケリ、去ハ軍モセスシテ徒ニ日ヲ送ルコト然ルヘカラスト云モノ出來ルト云トモ、

友梅精米ヲ以テ馬ヲ洗フ

丹治更ニ聞ス、彌遠卷ニソシタリケリ、斯テ日數經ケル處ニ、寄手ノ兵ノ中ヨリ、井上甚右衛門光親ト云モノ、城ノ屏際へ打寄テ、如何ニ青屋殿ニ申ス可ク候ト呼ハリケレハ、城中ヨリ何事ニテ候ソト云、井上又云ク、是ハ丹治ノ郎黨ニ井上ト申者ナリ、平常酒ニ耽リ候ヘトモ、身上元來范丹・顏淵ニモ越タル貧窶ノ者ニ候上ニ、長陣ノ徒然堪カタク覺ヘ候、若城中ニ酒ノ候ハ、一盃賜ハリ候ヘカシ、枯腸ヲ潤ホシ候ハント所望シタリケレハ、青屋嬉シクモ申サレ候モノカナ、先此方へ御入候へ、永々ノ籠城ニタマノ用意ノ薄酒モミナ空樽ニナリ候ヘトモ、一盞ノ空茶ナホ人ヲ醉シムト申トモ候ヘハ、少々残リテ候濁酒ヲ參ラセテ、承及タル驚舞ヲモ一サシ所望仕ルヘキニト戯レテ、城中へソ請シケレ、饗應數獻ノ後、井上殿ニ御モテナシノ無候、但入道ハ藤原春津・晋ノ王濟ト同シク、馬ヲ愛スル癖ノ候、御慰ニ形ノ如ク飼置テ候、蟻蟻トモ御覽有ヘウモヤ侍ハント云ハ、井上ソレコソ望ム處ニ候ト答フ、入道サラハトテ肥ニ肥タル細馬六七匹引立サセ、大ナル盃ニ水ヲモリテ井上カ前ニテ頭ヲ冷シ、口洗ハセナトセシカハ、井上モ心中ニ城内ノ水乏シト聞ハ虚言ナリケリト思ヒケリ、良有テ井上暇ヲ乞テ立歸リ、丹治ニカクト語り、其上塀裏ニ俵ヲヒシト積テ候ヘハ、兵糧



大永元年四月是月

四四二

モ澤山アルト覺シ、ト云、丹治ソレコソ城ニ水モ乏シク、兵糧モハヤ盡タル效ヨ、今三十日責ナハ、城ハ落ヘキソ、左様ノ物見ヤアルト笑ツ、仕寄ヲツケ、井樓ヲ組上、攻近ツキケレハ、二十餘日ニシテ、入道コラエス降人ニ成テ城ヲ出シトナリ、抑城中水乏シキヲ敵ニ知レマシキタメニ、精米ヲ以テ馬ヲ洗ヒシト云フ、蒲生智閑入道ノ音羽城ニテシカセシトモ、長野信濃守業政ノ蓑輪城ニテノ事ナリト、沼田勘解由左衛門尉清延ノ倉内城ニテノ事トモ、由良成繁ノ母妙印尼公ノ金山城ニテノ事トモ云、然ルニ赤澤宗益蒲生討手大將、武田逍遙軒長野討手大將、北條氏郡沼田討手大將、中條出羽守金山寄手大將、等ノ諸將、智謀梟勇世ニ聞ヘタルモノナレトモ、皆精米ヲ以テ馬ヲ洗ヘルニ欺ムカレタリ、丹治元就ヒトリ其欺ヲ受ス、智勇諸將ニ冠タリト云ヘシ、

美濃齋藤利茂、同國汾陽寺ニ禁制ヲ掲グ、

〔汾陽寺文書〕

○美濃

禁制

汾陽寺

- 一 甲乙人等濫妨狼籍〔籍〕之事、
- 一 伐採竹木刈草并山林放牛馬之事、

俗人ノ寄宿

寺法違背者ノ許容

寺領ノ違亂

百姓ノ年貢諸役無沙汰

- 一 俗人執宿之事、
  - 一 於當寺山中殺生之事、
  - 一 背寺家之法度輩令許容之事、
  - 一 諸人寄進之地并祠堂方買德之田畠等、成違亂煩之支、
  - 一 寺領之百姓、稱他之被官、年貢諸役以下無沙汰之事、
- 右條々、於違犯之輩者、則可處嚴科者也、仍下知如件、

永正十八年卯月 日

利茂〔實德〕（花押）

大日本史料 第九編之十二終

大永元年四月是月

四四三



海印寺公帖

眞如寺公帖

補遺

○大永元年二月二、左ノ一條ヲ加フ、二四一頁、  
二十三日、丙午幕府、周仙叔彭ヲ壹岐海印寺住持ト爲シ、尋テ、山城眞如寺住持ト爲ス、

〔東福寺文書〕○山城

壹岐國海印寺住持職事、任先例可執務之狀如件、

永正十八年二月廿三日

(彭叔也)  
周仙首座

(義經)  
(花押)

(仙紙)  
〔周仙西堂〕

權大納言(義經)  
(花押)〔

眞如寺住持職事、任先例可被執務之狀如件、

永正十八年二月廿六日

周仙西堂

權大納言(義經)  
(花押)

〔幻雲疏藁〕

江湖

仙彭叔住眞如有序

補遺



壽桂ノ住眞  
如寺江湖疏  
兩寺ノ公帖  
ヲ同時ニ受  
ク

補遺

二

江湖 茲諭、前席壹岐州靈松山海印彭叔禪師、茂膺大檀越征夷大將軍台命、視篆萬年  
山真如禪寺、蓋海印・真如兩帖、同時而降、可謂榮也、凡我江湖遊從之輩、不勝鼂  
拊、且相謂曰、禪師之祖海印翁、道契天山相公、而為鹿苑第一世、然位不稱德、時論  
為歉、爾來厥孫相繼、以警虫多、出為人者鮮矣、禪師齒僅過二毛、特得累除、積德之  
家、天其有待乎、矧禪師、自少登慧嶠不二老人之門、目染于禪河、耳濡于教海、可  
尚矣、於是、削牘闔辭、以抒賀忱云、

圓照起龍淵而陞座 開真如不二門 佛鑿錄、陞座云、夜來一雨  
潤乾坤、全露真如不二門、  
長沙在鹿苑而遊山 居住持第一世 （景忠）  
會元岑大虫傳、

雖云丈夫重出處 其奈大法有盛衰

某、辭擒風騷 學涉顯密

艸書何要渾脫 懷素號少年上人

僧寶不假琢磨 明白贊諸方宿衲

疏鑿禪河功齊神禹 洗滌几塵名比老彭

凌玉清翔紫霄 入枕蓬萊海上

無文印  
送夕陽迎素月 讀書梅檀閣中

蓋會他家作一家 矧超初地登十地

鵬搏扶搖六月以息 要展壯圖

鷗沒浩蕩萬里誰馴 （難力） 勿忘舊約

（承球）  
公出于神氏、師曰不琢、

補遺

三



大日本史料 第九編之十二

昭和三十三年三月三十日發行

豫約價 八百圓

著作  
所權  
有

編纂者 東京大學史料編纂所

發行者 東京大學

印刷者 興進社印刷所

小張 淺五郎

發賣所 財團東京大學出版會

振替口座 東京五九九六四番  
電話小石川(92)八八一四番

コロタイプ印刷 株式會社 大塚巧藝社  
製本 株式會社 松岳社











